

平成22年12月8日公表

平成22年産水陸稲の収穫量

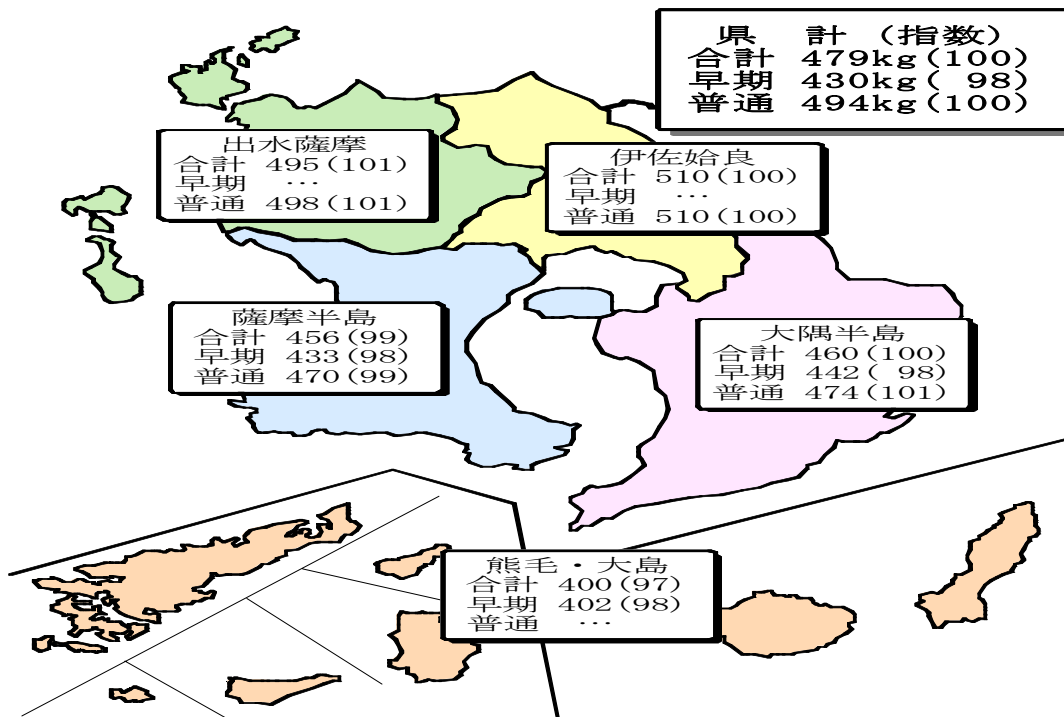
— 水稲の10a当たり収量は479kg（作況指数100） —

— 収穫量（子実用）は11万8,800t —

【調査結果の概要】

- 1 鹿児島県における平成22年産水稲の作柄は、早期栽培では、初期生育期の低温や日照不足から分けつが悪く、穂数が少ないことなどから、10a当たり収量は430kg（作況指数98）となりました。普通栽培では、田植え後の日照不足から分けつが悪く、穂数は少なかったものの、登熟期が概ね天候に恵まれ順調に推移したことから、10a当たり収量は494kg（作況指数100）となりました。水稲合計の10a当たり収量は479kg（作況指数100）、収穫量（子実用）11万8,800t（前年産対比97%）となりました。
- 2 平成22年産陸稲の作付面積（子実用）は9ha（前年産対比75%）で、収穫量（子実用）は21t（同72%）となりました。

水稲の作柄表示地帯別10a当たり収量



- 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率です。
- 作柄概況の地帯別は、主要作付地帯（1,000ha以上）のため、それ以外は…で掲載しています。

この資料は、九州農政局ホームページ鹿児島農政事務所サイトの「統計情報（鹿児島県）」でもご覧いただけます。

【「鹿児島農政事務所」 (<http://www.maff.go.jp/kyusyu/kagoshima/>)】

【調査結果】

1 水稻の作柄概況

(1) 早期栽培

全もみ数は、やや少なくなりました。

登熟（実入り）は、7月中旬以降おおむね天候に恵まれたことや、全もみ数がやや少なかったことによる補償作用から、やや良となりました。

刈取最盛期は、平年に比べ3日遅い8月6日となりました。

被害は、台風の襲来がなく、いもち病、紋枯れ病等の発生は少ないものの、初期生育期の低温や日照不足、一部地域でカメムシの吸汁加害が見られ、平年に比べやや多くなりました。

この結果、10a当たり収量は430kg（作況指数98）となりました。

(2) 普通栽培

全もみ数は、やや少なくなりました。

登熟は、概ね晴天に恵まれ、日照時間、気温日較差が確保されたことから、良となりました。

刈取最盛期は、平年に比べ1日遅い10月15日となりました。

被害は、初期生育期の日照不足や病害虫の発生は見られたものの、台風の影響がなく平年並みとなりました。

この結果、10a当たり収量は494kg（作況指数100）となりました。

2 水稻の収穫量

収穫量（子実用）は11万8,800 tとなり、うち、早期栽培で2万5,300 t、普通栽培で9万3,400 tとなりました。

また、主食用作付面積に10a 当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は11万6,900 tとなりました。

第1表 平成22年産水陸稲の収穫量

区 分	作 面 付 積 ①	10 当 たり 収 量 ②	収 穫 量 ③=①×②	前年産収穫量との差		参 考				
				対 差 t	対 比 %	主食用 作付面積 ④	収 穫 量 (主食用) ⑤=④×②	10a当たり 平年収量 ⑥	作況指数 ⑦=②/⑥	
										ha
水 陸 稻 合 計	24 800	—	118 800	△ 3 200	97	…	…	…	…	
水 稻	平. 22 水稻計	24 800	479	118 800	△ 3 200	97	24 400	116 900	479	100
	早期栽培	5 890	430	25 300	△ 1 700	94	…	…	439	98
	普通栽培	18 900	494	93 400	△ 1 500	98	…	…	492	100
	21 水稻計	24 700	494	122 000	—	—	…	…	479	103
	対前年差	100	△ 15	△ 3 200	—	—	—	—	—	—
陸 稻	平. 22	9	233	21	△ 8	72	…	…	…	…
	21	12	242	29	—	—	…	…	…	…
	対前年差	△ 3	△ 9	△ 8	—	—	…	…	…	…

注:1 普通栽培には、二期作を含みます。

2 計と内訳は、ラウンドのため一致しない場合があります。

3 表中の「△」印は、減少したことを示します。また、「—」印は事実のないもの、「…」印は事実不詳又は調査を欠くものを示します。
(以下の各表についても同じです。)

第2表 平成22年産水稻の作柄表示地帯別収穫量

1 早期栽培

区 分	作付面積 (子実用)			10 a 当 たり 収 量	収 穫 量 (子実用)			(参 考)	
	前年産との比較				前年産との比較			10 a 当 たり 平 年 収 量	作 況 指 数
	①	対 差	対 比		②	③=①×②	対 差		
県 計	5 890 ^{ha}	90 ^{ha}	102 [%]	430 ^{kg}	25 300 ^t	△ 1700 ^t	94 [%]	439 ^{kg}	98
薩 摩 半 島	1 640	60	104	433	7 100	△ 230	97	440	98
大 隅 半 島	2 840	10	100	442	12 600	△ 1100	92	449	98
熊 毛 ・ 大 島	1 170	10	101	402	4 700	△ 350	93	412	98

2 普通栽培

区 分	作付面積 (子実用)			10 a 当 たり 収 量	収 穫 量 (子実用)			(参 考)	
	前年産との比較				前年産との比較			10 a 当 たり 平 年 収 量	作 況 指 数
	①	対 差	対 比		②	③=①×②	対 差		
県 計	18 900 ^{ha}	0 ^{ha}	100 [%]	494 ^{kg}	93 400 ^t	△ 1500 ^t	98 [%]	492 ^{kg}	100
薩 摩 半 島	2 660	△ 30	99	470	12 500	△ 900	93	473	99
出 水 薩 摩	6 070	20	100	498	30 200	△ 700	98	491	101
伊 佐 始 良	6 640	20	100	510	33 900	800	102	512	100
大 隅 半 島	3 490	△ 60	98	474	16 500	△ 1100	94	471	101

注：1 数値は、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合があります。
2 表中の△は、減少したものを示します。

3 水稻の被害概況

水稻合計の被害量の総数は2万600 tで、被害率17.3%となり、平年に比べ1.6ポイント増加しました。

これは、主に日照不足・風水害等の気象被害の発生が多かったためです。

第3表 平成22年産水稻被害量

区 分	被 害 量	被 害 率		
		本 年	平 年	対 平 年 差
	t	%	%	ポイント
総 数	20 600	17.3	15.7	1.6
気 象 被 害	10 400	8.8	5.4	3.4
うち 風 水 害	2 280	1.9	3.6	△ 1.7
うち 日 照 不 足	4 240	3.6
病 害	5 190	4.4	6.4	△ 2.0
うち い も ち 病	2 350	2.0	2.8	△ 0.8
うち 紋 枯 病	2 410	2.0	2.4	△ 0.4
虫 害	4 400	3.7	3.6	0.1
そ の 他	654	0.6	0.3	0.3

注：1 被害率は、平年収量に対する被害量の比率であり、被害の程度を表す指標です。
2 気象被害のうち、「日照不足」については、平成14年より気象被害について表章区分の見直しを行ったことから、平年差を比較していません。

【参考1】

平成22年産水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としています。（【参考3】参照）

なお、農家等が選別に用いるふるい目幅は、1.80mmが多くなっています。ふるい目幅の重量割合とふるい目幅別10a当たり収量は次のとおりです。

単位 { 重量割合：%
平均対差：ポイント

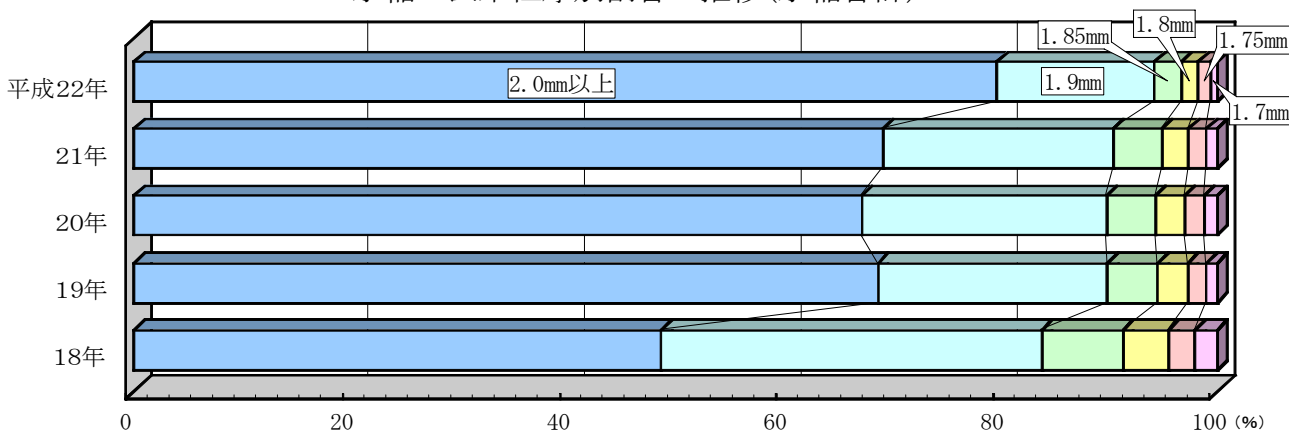
区 分	合計	ふるい目幅					
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
水稲合計重量割合	100.0	79.7	14.5	2.5	1.6	1.1	0.6
平均対差		17.5	△ 11.1	△ 3.0	△ 1.7	△ 0.9	△ 0.8
早期水稲重量割合	100.0	70.8	22.1	3.2	1.9	1.2	0.8
平均対差		12.9	△ 6.4	△ 3.3	△ 1.8	△ 0.8	△ 0.6
普通水稲重量割合	100.0	83.1	11.6	2.3	1.5	1.0	0.5
平均対差		19.7	△ 13.2	△ 2.9	△ 1.7	△ 1.0	△ 0.9

単位：kg

区 分	合計 (1.70mm選別)	選別ふるい目幅別10a当たり収量					
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	
県 計	479	382	451	463	471	476	
地 帯 別	薩 摩 半 島	456	317	416	435	446	452
	出 水 薩 摩	495	430	475	485	489	493
	伊 佐 始 良	510	419	483	494	502	507
	大 隅 半 島	460	362	436	447	454	457
	熊 毛 ・ 大 島	400	311	374	384	391	396
作 期 別	早 期 栽 培	430	304	399	413	421	427
	普 通 栽 培	494	411	468	479	487	492

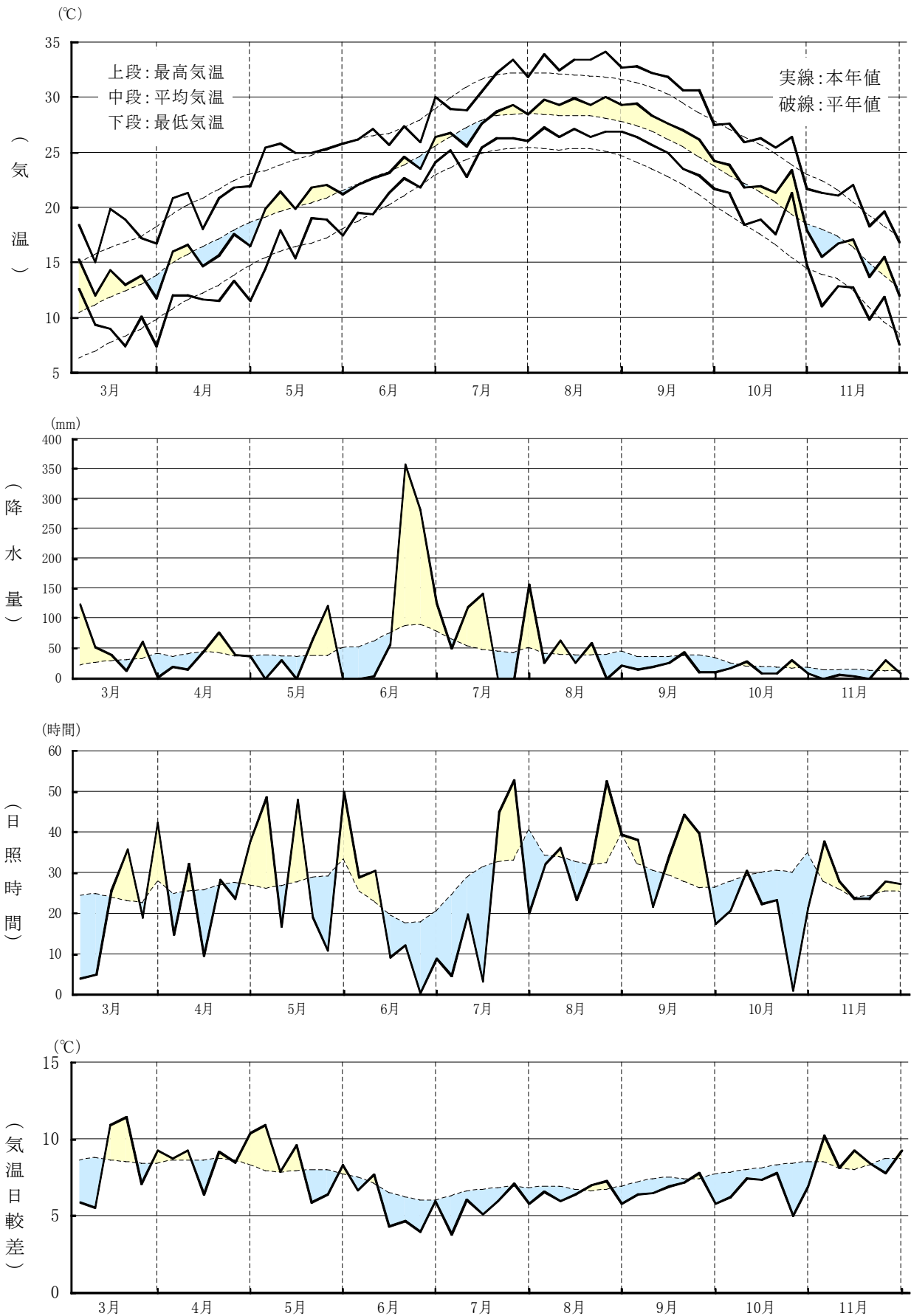
- 注：1 平均対差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値です。
 2 台風等により未熟粒・被害粒等の混入が多く、農産物規格三等の品位に達しない場合は再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。
 3 選別ふるい目幅別10a当たり収量は、10a当たり収量に、ふるい目幅別重量割合を乗じて算出してあります。
 4 表中の「△」は、平均より少ないことを示します。

水稲の玄米粒厚別割合の推移(水稲合計)



【参考2】

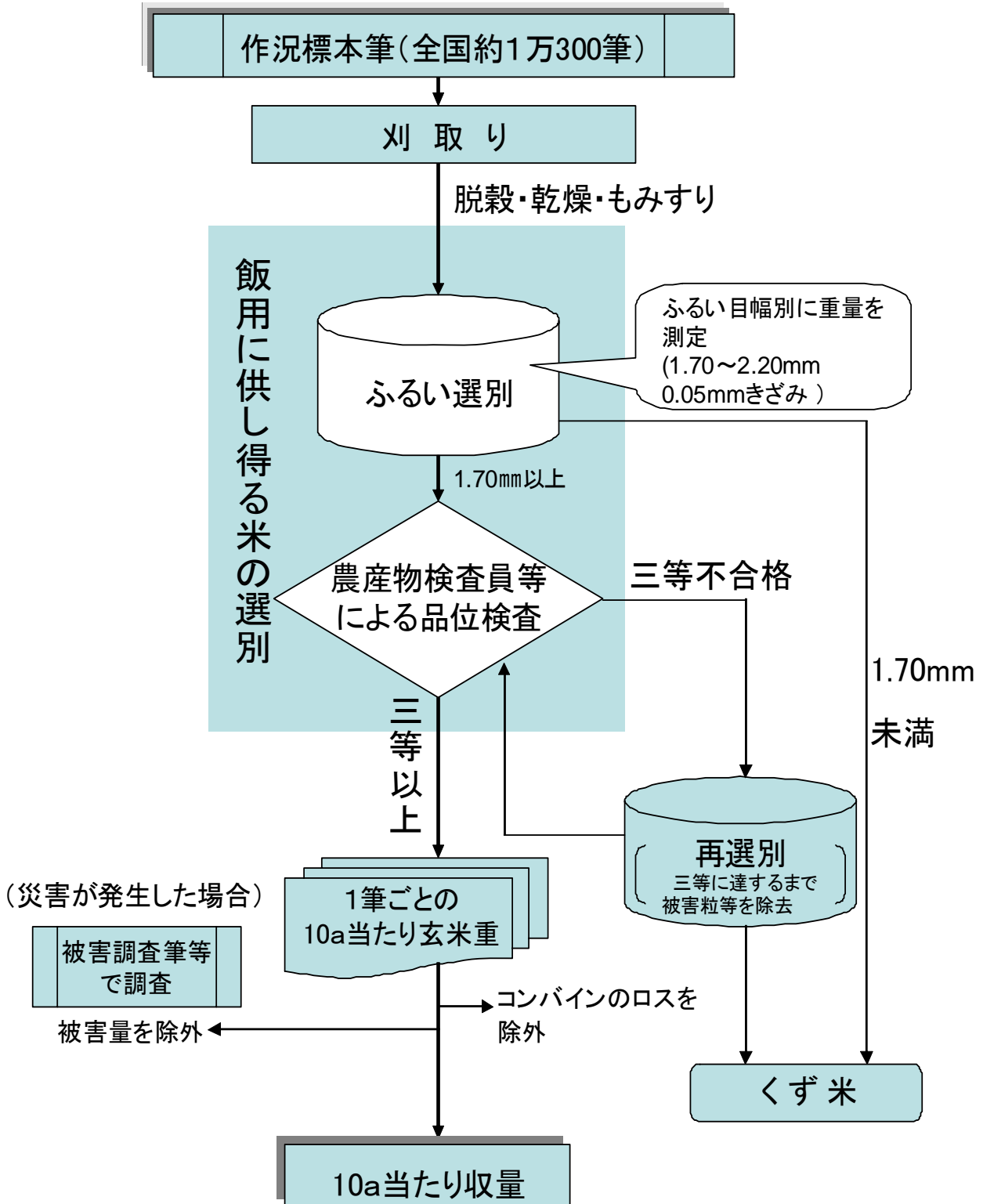
平成22年産水稻生育期間における鹿児島県の気象



資料：鹿児島地方気象台「アメダスデータ」 観測地点：鹿児島

【参考3】

収穫量調査は、飯用に供し得る米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考4】参照）ごとに一定面積の稲を刈り取り、農産物規格三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



ふで 作況標本筆とは

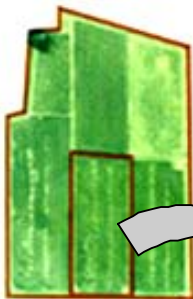
ふで
収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆(1枚のほ場を筆と呼びます。)は、都道府県ごとの水稻の10a当たり収量が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように各地で選定(全国で約1万300筆)しています。

都道府県内の全耕地
(母集団)



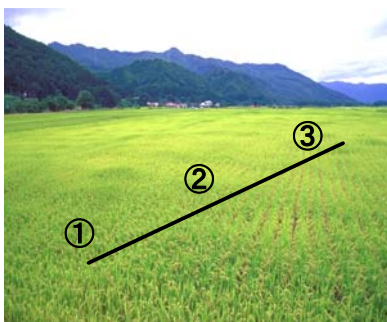
- 1 都道府県ごとの耕地を、約2 ha(北海道は約10ha)の区画に区切った単位区の集まり(調査母集団)として整理し、その中の水田を含むものから、無作為抽出法(人間の恣意を排したくじ引きのような選び方)により「標本単位区」を選んでいます。

標本単位区
(約2 ha)



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としています。

作況標本筆
(全国で約1万300筆)

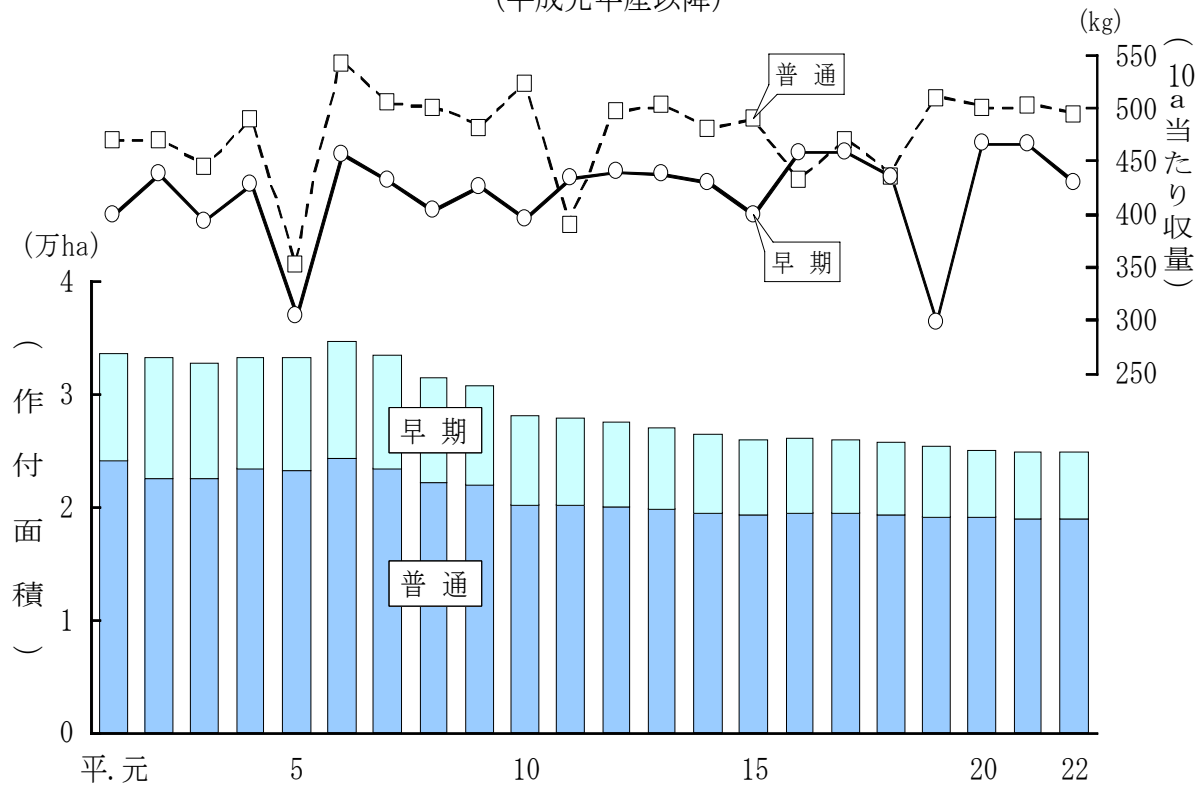


- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所(①、②、③)を実測調査箇所として、サンプル採取(坪刈り)を行いました。

【参考5】

水稻作付面積及び10 a 当たり収量の推移

(平成元年産以降)



年産	水 稻 計					早 期 栽 培					普 通 栽 培				
	作付面積	10a 当たり収	収穫量	作況指数	10 a 当たり平年収量	作付面積	10a 当たり収	収穫量	作況指数	10 a 当たり平年収量	作付面積	10a 当たり収	収穫量	作況指数	10 a 当たり平年収量
平.元	ha	kg	t		kg	ha	kg	t		kg	ha	kg	t		kg
平.元	33 600	449	150 900	104	433	9 480	399	37 800	100	398	24 100	469	113 000	105	446
2	33 200	459	152 400	105	437	10 700	438	46 900	108	404	22 500	469	105 500	104	450
3	32 700	428	140 000	96	444	10 100	393	39 700	95	413	22 500	444	99 900	97	458
4	33 200	471	156 400	105	447	9 870	428	42 200	103	414	23 300	489	113 900	106	462
5	33 100	338	111 900	75	450	9 840	304	29 900	73	414	23 200	352	81 700	76	465
6	34 500	517	178 400	115	450	10 200	456	46 500	110	414	24 300	542	131 700	116	466
7	33 200	483	160 400	107	452	9 860	432	42 600	104	415	23 400	505	118 200	108	467
8	31 300	472	147 700	104	452	9 290	404	37 500	97	416	22 100	500	110 500	107	467
9	30 600	465	142 300	102	455	8 700	426	37 100	102	417	21 900	481	105 300	102	471
10	28 000	487	136 400	106	459	7 900	395	31 200	94	419	20 100	523	105 100	110	476
11	27 800	402	111 800	86	466	7 730	434	33 500	103	422	20 100	389	78 200	81	482
12	27 500	481	132 300	102	470	7 540	440	33 200	103	426	19 900	497	98 900	102	487
13	26 800	486	130 200	103	470	7 190	438	31 500	103	426	19 700	503	99 100	103	487
14	26 300	467	122 800	98	476	6 860	430	29 500	100	431	19 500	480	93 600	98	492
15	25 900	467	121 000	98	476	6 620	399	26 400	93	431	19 300	490	94 600	100	492
16	26 000	439	114 100	92	476	6 520	458	29 900	106	432	19 500	432	84 200	88	491
17	25 800	467	120 500	98	478	6 360	459	29 200	105	436	19 500	469	91 500	95	492
18	25 600	435	111 400	91	479	6 340	435	27 600	99	439	19 300	435	84 000	88	492
19	25 300	457	115 600	95	479	6 290	298	18 700	68	439	19 000	509	96 700	103	492
20	24 900	492	122 500	103	479	5 950	467	27 800	106	439	19 000	500	95 000	102	492
21	24 700	494	122 000	103	479	5 800	466	27 000	106	439	18 900	502	94 900	102	492
22	24 800	479	118 800	100	479	5 890	430	25 300	98	439	18 900	494	93 400	100	492

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び稲調査の中の水陸稲の収穫量調査として実施し、水陸稲の作付面積、作柄状況、収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導、共済事業の適切な運営等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査期間

- (1) 作付面積調査
 - ア 水 稲：7月15日現在
 - イ 陸 稲：収穫期
- (2) 収穫量調査
 - 水陸稲：収穫期

3 調査方法

- (1) 作付面積調査
 - ア 水稲：標本単位区に対する統計・情報センター職員及び統計調査員による実測調査並びに同センター職員による巡回・見積り及び情報収集により行いました。
 - イ 陸稲：統計情報センター職員による巡回・見積り及び情報収集により行いました。
- (2) 収穫量調査
 - ア 水稲：作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する統計情報センター職員による実測調査並びに作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行いました。
 - イ 陸稲：統計情報センター職員による巡回・情報収集により行いました。

4 調査対象数

- (1) 作付面積調査
 - 標本単位区：969単位区 巡回・見積り：43市町村
- (2) 収穫量調査
 - 作況標本筆：200筆 作況基準筆：38筆 巡回・見積り：43市町村

5 用語の解説

- **早期栽培**とは、出穂期の台風被害が作柄に大きく影響するので、台風の襲来しやすい8～9月に出穂となることを避けることなどから、8月中旬頃までに収穫する目的で作付けされている栽培方法です。
- **青刈り**とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米などです。
- **穂数**とは、1㎡当たりに出穂したすべての穂の数です。
- **全もみ数**とは、1㎡当たりの全てのもみ数のことです。
- **登熟**とは、開花、受精したのち、実が肥大し熟れていくことをいいます。
- **作況指数**とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率です。
- **10a当たり平年収量**とは、水稲の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。
- **10a当たり平均収量対比**とは、10a当たり平均収量（原則として過去7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）に対する当年産10a当たり収量の対比をいいます。
- **被害面積**とは、農作物に損傷を生じ、被害なかりせば収量（その被害が発生しなかったと仮定した場合に穫れ得ると見込まれる収量）から減収した面積をいいます。
- **被害量**とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、被害なかりせば収量（その被害が発生しなかったと仮定した場合に穫れ得ると見込まれる収量）より減収した量をいいます。

6 その他

- 作柄概況の地帯別は、主要作付地帯（1,000ha以上）を掲載しています。
- 要旨及び解説に用いた作柄の表示区分は、次のとおりです。

多 少 (良否)	少 ない (不良)	やや少 ない (やや不良)	平 年 並 み	やや多 い (やや良)	多 い (良)
対 平 年 比	94 % 以下	95 ~ 98 %	99 ~ 101 %	102 ~ 105 %	106 % 以上

- 作柄表示地帯区分は、次のとおりです。

地 帯 区 分 (平成22年4月1日現在)

薩 摩 半 島 --- 鹿児島市、枕崎市、指宿市、日置市、いちき串木野市、南さつま市、南九州市、鹿児島郡
 出 水 薩 摩 --- 阿久根市、出水市、薩摩川内市、薩摩郡、出水郡
 伊 佐 始 良 --- 霧島市、伊佐市、始良市、始良郡
 大 隅 半 島 --- 鹿屋市、垂水市、曾於市、志布志市、曾於郡、肝属郡
 熊 毛 ・ 大 島 --- 西之表市、奄美市、熊毛郡、大島郡

- 統計数値のラウンド方法は、次のとおりです。

原 数	7けた以上 (100万)	6けた (10万)	5けた (万)	4けた (1000)	3けた (100)
ラウンドするけた(下から)	3けた	2けた		1けた	ラウンドしない
例					
ラウンドする前(原数)	1 234 567	123 456	12 345	1 234	123
ラウンドした数値(統計数値)	1 235 000	123 500	12 300	1 230	123

【関連リンク】

農林水産政策関連ページ <http://www.maff.go.jp/j/kanbo/>
 食料政策関係ページ <http://www.maff.go.jp/j/soushoku/>
 農業生産振興関係ページ <http://www.maff.go.jp/j/seisan/>

問い合わせ先

◎本統計調査結果について

連絡先：九州農政局鹿児島農政事務所統計部
 生産流通消費統計課 生産流通消費統計係
 電 話：(直通) 099(222)7546
 F A X： 099(224)1501

◎農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局鹿児島農政事務所統計部
 統計企画課 企画・分析係
 電 話：(直通) 099(222)7538
 F A X： 099(224)1501